あらやのし（idのれて）

詩①

20 5
20

蜘蛛の巣

高松文樹

～朝の日課から

朝
狭い庭に降りると
松や梅
樫
君子蘭や月下美人
緑の生き物たちに
次々に声をかけ触れていく
所々に薄い蜘蛛の巣が
斜めに張られていて
植物たちを遮るので
ゴメンネと言いながら
サッと払うと
不意にwwwwが[*1]アクセス[*2]する
現代の不気味な系統樹が
思いきり小枝を広げ
このやさしい日常を
気まぐれにからめ取っていく
妻や草木たちのほか